

第15回宇宙開発委員会（定例会議）
議 事 次 第

1. 日 時 平成8年6月5日（水）
14:00～16:00
2. 場 所 委員会会議室
3. 議 題 (1) 前回議事要旨の確認について
(2) J-Iロケット試験機1号機による極超音速飛行実験機
(HYFLEX)の打上げ結果の評価及びHYFLEXの
回収失敗の原因究明について
(3) 静止気象衛星GMS-5を用いたSAR実験の結果につい
て
(4) ミッション実証衛星シリーズの進め方について
4. 資 料 委15-1 第14回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）
委15-2 J-Iロケット試験機1号機による極超音速飛行実
験機（HYFLEX）の打上げ結果の評価及びHY
FLEXの回収失敗の原因究明について（報告）
（案）
委15-3 静止気象衛星GMS-5を用いたSAR実験の結果
について
委15-4 ミッション実証衛星シリーズの進め方（案）

第14回宇宙開発委員会（定例会議）
議事要旨（案）

1. 日時 平成8年5月29日（水）
14:00～16:00
2. 場所 委員会会議室
3. 議題 (1) 前回議事要旨の確認について
(2) 日本人宇宙飛行士候補者の決定について
(3) 通信衛星3号-a（CS-3-a）の運用終了及び通信衛星3号-b（CS-3-b）の定常運用終了について
(4) 陸域観測技術衛星（ALOS）の次世代合成開口レーダ及び次世代型無人宇宙実験システム適合型宇宙環境利用実験装置の進捗状況について
(5) 科学衛星の開発状況について
(6) 月探査周回衛星計画について
4. 資料 委14-1 第13回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）
委14-2 日本人宇宙飛行士候補者の決定について
委14-3-1 通信衛星3号-a（CS-3-a）の運用終了について（宇宙開発事業団）
委14-3-2 通信衛星3号-b（CS-3-b）の定常運用終了について（通信・放送機構）
委14-3-3 通信衛星3号-b（CS-3-b）の定常運用終了について（宇宙開発事業団）
委14-4-1 陸域観測技術衛星（ALOS）のうち次世代合成開口レーダの進捗状況について
委14-4-2 次世代型無人宇宙実験システム適合型宇宙環境利用実験装置の進捗状況について
委14-5 宇宙科学研究所の科学衛星の進捗状況
委14-6 月探査周回衛星計画について

5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理
宇宙開発委員会委員

〃

野 村 民 也
山 口 開 生
長 柄 喜一郎

関係省庁

文部大臣官房審議官（学術国際局担当）
通商産業省機械情報産業局次長
運輸省運輸政策局次長
郵政大臣官房技術総括審議官

中 西 釦 治（代理）
一 柳 良 雄 〃
龍 野 孝 雄 〃
岡 井 元 〃

事務局

科学技術庁研究開発局長
科学技術庁研究開発局宇宙政策課長

加 藤 康 宏
林 幸 秀 他

6. 議事

(1) 前回の議事要旨の確認について

第13回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（資料委14-1）が確認された。

(2) 日本人宇宙飛行士候補者の決定について

宇宙開発事業団より、資料委14-2に基づき、5人目の日本人宇宙飛行士候補者が野口聡一氏に決定し、宇宙ステーション/JEMの組立・運用に備え、NASAのミッションスペシャリスト養成コースに派遣することが報告された。

(3) 通信衛星3号-a (CS-3a)の運用終了及び通信衛星3号-b (CS-3b)の定常運用終了について

宇宙開発事業団より、資料委14-3-1に基づき、通信衛星3号-a (CS-3a)について、平成7年11月30日の定常運用終了後の最終確認試験の状況として、宇宙開発事業団において、定常運用ではできなかった試験及び動作不良機器の再起動試験が実施されたこと、また、残燃料確認試験を行ったのちに5月31日に運用を終了すること等の説明が行われた。

また、通信・放送機構及び宇宙開発事業団より、資料委14-3-2、14-3-3に基づき、通信・放送機構が昭和63年より定常運用してきた通信衛星3号-b (CS-3b)について、7年間の設計寿命経過に伴い、5月31日に定常運用を終了すること、また、今後は宇宙開発事業団において、衛星の評価解析のための最終確認試験を実施するとともに将来の衛星開発に反映させるための動作確認試験等を行うとの説明が行われた。

(4) 陸域観測技術衛星 (ALOS) の次世代合成開口レーダ及び次世代型無人宇宙実験システム適合型宇宙環境利用実験装置の進捗状況について

通商産業省より、資料委14-4-1に基づき、資源探査分野で有効なJERS-1の合成開口レーダを発展させた陸域観測技術衛星 (ALOS) の次世代合成開口レーダ (PAL SAR) の進捗状況について、これまでに設計段階におけるALOS搭載を想定した予備的システム・サブシステム設計が行われたこと、また、平成8年度から宇宙開発事業団との共同開発段階に入ること等の説明が行われた。

続いて、同省より、資料委14-4-2に基づき、平成12年度打上げを目標とする次世代型無人宇宙実験システムの進捗状況について、平成7年度より、ドイツ宇宙機関 (DARA) と共同で研究が行われ、本年度から開発研究を開始すること、また、開発の役割分担として、同省は実験装置及びそれに関わる関連システムの開発を行うこと等の説明が行われた。

これらに関し、委員より、次世代型無人宇宙実験システムに係る経費の分担等日独の協力関係についての質問があり、日独間の協力については連絡を密にとり、十分な調整のもと進めていくことが必要である旨の発言が

あった。

(5) 科学衛星の開発状況について

文部省宇宙科学研究所より、資料委14-5に基づき、同研究所の今後の打上げ予定の科学衛星について、大型精密展開構造機構の工学実験等を目的とするMUSES-Bは、現在衛星システムの総合試験中で、内之浦での総合オペレーションを経て9月に打上げ予定であること等、月の内部構造探査等を目的とするLUNAR-Aは、平成9年度打上げをめざし、フライト・モデルを作成中であること等、その他、火星大気調査等を目的とするPLANET-B（1998年夏打上げ予定）、X線による天体観測等を目的とするASTRO-E（2000年打上げ予定）、小惑星探査等を目的とするMUSES-C（2002年打上げ予定）について進捗状況が説明された。

これに関し、委員より、日米宇宙損害協定に関するNASAとの協議について質問があり、同研究所より、順調に進められている旨の回答があった。

(6) 月探査周回衛星計画について

文部省宇宙科学研究所及び宇宙開発事業団より、資料委14-6に基づき、両機関において検討されている、月全域での地形、元素組成に関するデータの取得及び月面軟着陸技術の習得を目的とする月探査周回衛星計画について、開発計画及びシステム構想、観測構想及び開発計画等の説明が行われた。

これに関し、委員より、衛星の機能及び寿命、計画全体の経費等について質問が行われるとともに、今後さらに検討を進め、適宜進捗状況を報告するようにとの発言があった。

以上